

財団法人日本エスペラント学会

2006年度事業計画

前書き

私たち財団法人日本エスペラント学会（JEI）は、中立言語エスペラントを通じて諸国民の間の友好を促進し、ひいては世界平和に貢献することを目的にしている。そのために私たちは、国連、ユネスコなどの国際諸機関との連携をしつつ、世界エスペラント協会加盟の一員として、その目的達成のために努力をしている。

私たちの活動をめぐる情勢としては、

1. 英語の影響力が巨大化し、言語間の格差を生み、言語使用における不平等を拡大している。その影響は、言語教育の機会の限定、放送言語の限定などにもあらわれている。
2. 一方、言語の媒体をみると、インターネットが発達し、エスペラントにとっても、国際交流を容易にし、発展途上国の人々が運動に参加できる状況を生み出している。インターネットは、あたらしい形態のエスペラント学習者を増加させている。このことから、エスペラントは新たな手段の活用も含めて、実務面でも平等な世界をつくる一翼をになうものと位置づけられる。
3. 海外に目を向けると、先進国では、それぞれの組織が多様な取り組みを展開し、発展させている。一方、アジアの国の中には政治的な不安定さ、経済的な格差が存在し、エスペラント運動への障壁となっていることはいなめない。しかし、これらの外部状況を克服しようとする動きが各地で出ていることは心強い。
4. 数年来の本会会員数の伸び悩みは、日本のエスペラント運動百周年の今年、各地で地道な取り組みがなされ、好転の兆しも見える。しかし明らかな上昇機運にあるとは思えない。新たなエスペランチストが増え、本会会員もそれに伴い増えるためには、従来からのエスペラント会の活動を大切にするとともに、個人・団体間の多様なネットワーク形成による新たな運動形態の展開など、状況をよく分析し、時代に即した運動発展の方策を検討していかなければならない。
5. 日本では、今年2006年の日本エスペラント運動百周年、また2007年の世界エスペラント大会招致などで運動の盛り上がりが見られる。また新たなエスペラント日本語辞典も出版される。これらの活動を、私たちの会員増加に結びつけるためにもいっそうの工夫が必要である。

以上の情勢を踏まえて次のような方針で臨む。

1. エスペラントの存在意義を会員が再確認し、社会へ向かって広めていく運動をおこなう。
2. エスペラントを実際に学ぶ人の数を増やし、本会の会員数を1550人に高める。
3. 世界のエスペランチストと交流を深め連帯するために世界エスペラント協会および同アジアエスペラント運動委員会（KAEM）と協働関係を深める。
4. 日本のエスペラント運動百周年（2006）を各地で盛り上げ、また2007年の第92回世界エスペラント大会（横浜）の成功へ向け準備を進める。

本会各部は上記方針をもとに、次のような計画を持って活動する。

総務部

■基本方針

1. 事務局での日常業務は会員ボランティアの支援を受けて確実に遂行する。
2. 企画活動はボランティア、委員会を通じて実施する。

■定例事業

1. 図書の販売は情報を流す「カタログ」、「書評」や「JEIのホームページ」と連携して行う。
2. 世界エスペラント大会旅行団、図書館の管理は選任された担当者と事務局が共同で行う。
3. ハヶ岳エスペラント会館の管理は委員会の自主的な運営の支援を行う。

■重点事業

1. 個人情報保護法に対応できる体制整備（諸規定、公開、許諾、監査）
2. 公益法人制度改革に関する情報収集、検討
3. 上記の改正に照らした各種基金制度の再検討

財務部

■基本方針

1. 常のごとく
 - a. 経常収支での収支均衡と
 - b. 経常支出と長期展望に基づく支出（投資）とを分けて考えることを原則とする。
2. 景気がやや好転の気配を見せていることに鑑み、休眠状態の「投資委員会」の再開を考える。

組織部

■基本方針

1. 日本の責任あるエスペラント組織として、エスペラント諸事業の実施のために、国内エスペラント団体との連携を進める。
2. 本会の活動の基盤である会員への支援と会員からの支持の強化を図る。
3. このため、各定例事業を進め、実施体制の拡充を模索するとともに、エスペラント第2世紀を視野に入れて活動を準備する。

■定例事業

1. 会員・支部業務

- (1) 会員管理（会員総会 10月）
- (2) 会員拡大：特に次の施策を実施する：会費更新時期の会員への働き掛け、口座振替の推進、新入会員アンケート実施、会員統計の役員やキーパーソンへの周知、各地の講習会への働き掛け、大会参加者への働き掛け等、各種施策を連携させて実施する。実施の体制を強化する。
- (3) 支部管理（支部代表者会を5/14（日）に開催）

なお、本事業にあたっては、会員統計による実態把握を行い、会員の定着を図る施策を着実に実行する。また、エスペラント会と接触なく本会に直接入会する会員への定着の方策を検討する。

2. 国内エスペラント大会関連業務

- (1) 日本エスペラント大会：大会常置委員会（KKK）委員としての活動（会合 10 月）
- (2) 日本エスペラント大会常任書記（KKS）支援

3. 国内エスペラント会渉外業務

- (1) 事業・行事後援
- (2) エスペラント運動年鑑作成
- (3) 地方エスペラント大会との連携
- (4) 国内エスペラント組織との連携

なお、本会支部およびエスペラント会との連携と情報交換・経験交流の活発化の方策を大会分科会などを通して行う。本会支部を拡大し、また、インターネットの活用、広域支部対応やエスペラント第 2 世紀での連携方策を検討する。

4. 基金管理業務

- (1) 日本エスペラント大会基金管理。なお、この中で、アジアの国別エスペラント団体（LA）からの参加費を負担する。

■今年度の重点事業

1. 国内エスペラント大会関連で、KKK においては、規約改正提案、日本大会規約提案、資金管理（本会への委託）などについて検討する。また、KKS においては、後継者への引継ぎを検討する。

国際部

■基本方針

1. 世界エスペラント協会（Universala Esperanto-Asocio=UEA）と協力しながら事業を行う。アジア地域については UEA のアジアエスペラント運動委員会（Komisiono pri Azia Esperanto-Movado=KAEM）を通してエスペラント運動の発展をはかる。
2. 国内外のエスペランティストの国際的なエスペラント活動を支援する。
3. 百周年記念事業に対して協働する。特に 2007 年横浜での第 92 回世界エスペラント大会に向けて、国際的な広報活動や組織活動に協働する。そのために担当者を決めて具体的に取り組む。

■定例事業

1. 世界エスペラント協会（UEA）との協働

- (1) 選出された UEA 国際委員とともに、UEA の諸活動に対する協働をすすめる。
- (2) UEA 個人会員の増加のために、本会の諸活動と連動させながら広報や募集活動を続ける。
- (3) 第 91 回世界大会（イタリア・フィレンツェ、7 月 29 日－8 月 5 日）に在イタリア日本大使館から来賓を招くため、必要な手続きをとる。
- (4) UEA アジア基金（Fondaĉo Azio de UEA）について、募集と実務的な協力を継続する。

2. UEA アジア運動委員会（KAEM）とアジアの運動への協力

- (1) KAEM の小委員会（Subkomisiono de KAEM）の部員は、KAEM の事業計画の Projekto C（アジアの活動家を UEA 会員へ）や、"Esperanto en Azio"（アジア地域情報誌）の発行・発送に対する援助を継続する。

(2) 第93回日本エスペラント大会（岡山、10月7日-9日）でアジア活動分科会（Azia Agado）を主催する。

(3) 日本に來訪するアジア人エスペランティストに対する援助を継続する。

3. デレギート連絡網（delegito=UEA 会員世話人）

(1) UEA の関係機関に協力し、国内のデレギートの現状把握と活性化につとめる。

(2) 第93回日本エスペラント大会会期中にデレギートの分科会を開催する。

4. 国際文通サービス

担当部員、JEI 事務局、ホームページ担当者の連携により事業を継続し、関西エスペラント連盟国際部との資料交換や協力も継続する。

5. 第91回世界大会旅行団への協力

この事業を成功させるため、これまでの実績を踏まえて協力する。

編集部

■基本方針

1. 会誌「La Revuo Orienta／エスペラント」を、本会の活動方針に沿って、各部との連携を密にしながら編集・発行し、エスペラント運動の発展に貢献する。
2. 全国、地方、県など各段階でのエスペラント運動を相互に結ぶ機能を重視する。
3. 編集に当たっては、運動・学習・教養の3つのバランスを重視する。
4. 日本エスペラント運動百周年の成功と横浜世界大会の成功に寄与する。

■定例事業

1. 読まれる誌面づくりをめざし次の点に留意する。

- 1) 会員の興味・関心、運動の方向に沿った特集、連載をする。
- 2) 全ての学習段階の読者を想定し誌面づくりを考えるが、初級から中級に焦点を当てた誌面づくりを特に重視する。
- 3) 国際、国内に目を行き届かせ、会員の視野の拡大に貢献する。
- 4) エスペラント文と日本文の分量のほどよい調和をはかる。
- 5) 投稿欄の充実、原稿の募集などで、会員の執筆の機会を増やす。
- 6) 新しい執筆者の発掘につとめる。
- 7) 運動の写真・個人の写真を多く載せ、記録的な要素、視覚的な要素も大切にする。
- 8) 機関誌に関しての会員の意見や感想の聴取を心がける。
- 9) 横浜世界大会を視野に入れた連載を組む。

2. 編集部の体制を強化する。

- 1) 編集会議を毎月開催する。
- 2) 1月に拡大編集会議を開き、次年度の編集方針を確立する。
- 3) 編集部員、メール編集委員（編集部メーリングリストに加入し意見を寄せてもらう編集委員）の拡大をはかる。
- 4) 編集業務をより円滑に行えるよう絶えず見直しを行う。

- 5) 著作権問題、使用用語などにより注意をはらう。
3. 盲人・高齢者向けの音声版会誌の発行を拡大継続する。
4. 支部の機関誌・紙活動を組織部との協力を強め支援する。

■今年度の重点事業

1. 百周年と横浜世界大会に向けた次の企画を実現させる。
 - 1) 百周年特集号を6月に発行する。24ページ増とし特集ページはエスペラント文とする。
 - 2) 2007年7月号は、全文エスペラントの機関誌とし、世界大会参加者へのお土産になるようなものを発行する。
 - 3) 横浜世界大会に向けて、次の記念出版を、出版部と共同して行う：「日本各県めぐり (Vivo en mia gubernio)」(仮題)。
 - 4) 会誌連載記事のうち適当なものの出版化を企画する。

研究教育部

■基本方針

1. 教育部門においては、エスペラント入門のための素材提供、学習者の語学力向上の支援、エスペラント指導者の育成に取り組む。
2. 研究部門においては、エスペラント語学の振興および関連諸分野との交流を含めたエスペラント語論の発展に取り組む。

■定例事業

1. 試験制度の運営

- 1) エスペラント学力検定試験と新学力テストを日本エスペラント大会やエスペラントセミナー等で実施する。
- 2) エスペラントを正規科目として取り入れている学校での実施をすすめていく。

2. 講習会・講座の実施

- 1) 入門・初心者講習会講師養成講座、中級講習会講師養成講座を引き続き行う。
- 2) 教授法・教材等について研究し(教授法研究会)、講習会講師用手引書を作成する。
- 3) エスペラント界外の様々な団体・組織等に講座開催を呼びかける。
- 4) 上記団体・組織あるいは学校など、要請に応じて講師派遣を行う。
- 5) 派遣講師のネットワーク化をはかる。
- 6) JEI認定講師制度の確立に向けて検討を行う。
- 7) 教材(インターネットを含む)の開発を準備する。

3. 国際教育者エスペランチスト連盟(ILEI)日本支部としての活動

教職員エスペラント協議会(ALE)やその他、教育関係のグループや個人と協力して、日本支部として活動ができるようにしていく。

4. 教職員エスペラント協議会(ALE)との協働

- 1) ALEと協力して、学校へエスペラントを紹介する機会を増やしていく。

- 2) ALE と協力して、日本の小・中・高校および大学でのエスペラント教育のまとめを行う。
- 3) 学校と関わりのあるエスペランティストにアンケートを行い、関係者のネットワーク化をはかる。

5. エスペラントセミナーと体制作り

- 1) エスペラント全国セミナーは、今年度は埼玉県嵐山町の国立女性教育会館において第 39 回を開催する。各地のグループ・団体と共催で行う場合のスムーズな運営のために手引書を作成する。来年にむけて、共催可能性のある団体と協議を始める。
- 2) 中級セミナーを引き続き実施する。
- 3) 横浜での第 92 回世界エスペラント大会でのボランティアを対象とした特別セミナーを、国内準備委員会 (LKK) と協力して実施する。

6. 紀要「エスペラント研究」の発行

広義のエスペラント学振興のための紀要「エスペラント研究/Japana Esperantologio」については、紀要編集委員会において、第 3 号の編集・発行を行う。

7. 研究発表会の実施

日本エスペラント大会を主にして年 1 回以上、エスペラント学に関する研究発表会を実施する。

広報部

■基本方針

1. 日本エスペラント運動百周年記念事業推進のための広報を支援する。
2. 各部・各委員会における事業の趣旨に添った広報を展開する。
3. JEI 支部における広報活動を支援する。

■定例事業

1. 日本エスペラント運動百周年記念事業委員会 (JJJ) 認定事業の趣旨に添った広報を実施する。
2. シンポジウム、セミナー、世界大会、日本大会、八ヶ岳エスペラント館運営委員会、アジアエスペラント運動委員会 (KAEM) 等々関連部会・委員会と連動して、それぞれの事業の趣旨に添った広報を展開する。
3. 支部代表者会議で、支部における広報課題を討議してもらう。
4. 上記にあわせて 2006 年広報白書発行する。
5. JEI-ウェブページの更新を維持する。

■今年度の重点事業

1. 日本のエスペラント運動百周年に関して「日本エスペラント運動百周年ニュース」を発行する。
2. 第 92 回世界エスペラント大会に関して「UK 横浜ニュース」を発行する。
3. エスペラント会館で「エスペラントの日」記念行事を実施する。
4. 「エスペラントの日」記念事業の全国展開を推進する。
5. 本会のウェブページを刷新する。

なお、2、3 項に関しては、両ニュースは主にメディアに宛て、随時、ファクス配信、または

インターネット配信を行なうもの。また、本会ウェブに PDF および HTML で提供することにより、支部、地方会等で再利用可能なものとする。

出版部

■基本方針

1. 広報、学習、実用に役立つ出版を企画、推進する。このため、本会内の各部門と連携する。
2. 百周年を記念する出版および第 92 回世界エスペラント大会を契機とする出版について関係部門と連携して推進する。

■定例事業

1. 出版の企画や著作権について検討する。
2. 需要が見込め、原稿の用意のととのったものを出版する。
3. エスペラント界内の出版部門と連携し、良書を該当部門出版、本会販売の扱いとする。これにより、小規模出版部門でも ISBN を付した書籍を出すことを可能とする。

■今年度の重点事業

1. 「エスペラント日本語辞典」を出版し、この電子辞書化を企画する。
2. 「日本語エスペラント辞典」の改訂に向けて、検討を行う。

日本エスペラント運動百周年 JEI 記念事業

■基本方針

1. 日本エスペラント運動百周年事業委員会 (JJJ) 事務局として、百周年事業を支援する。
2. 2007 年に横浜で開催の第 92 回世界エスペラント大会を新世紀に向けた出発の事業と位置づける。
3. 事業を文化事業、催事、普及活動に大別し、関連各部・各委員会と 連動して、百周年記念事業に取り組む。
4. 百周年記念事業は今年度末で終了するものとし、最終まとめを行なう。

■定例事業

1. 文化事業（主として出版活動、出版部と連動）

- (1) 『百年史』発行を準備する（2007 年末予定）。
- (2) 『分野別・地域別百年史』発行を関係者へ呼びかける。
- (3) 『会誌 La Revuo Orienta 1000 号目次集』を企画する。

2. 催事

- (1) 第 93 回日本エスペラント大会（本年 10 月、岡山）は日本の組織的運動第 2 世紀の幕開けの場と位置づけられている。日本エスペラント運動百周年事業委員会 (JJJ) と協力して準備に協力する。
- (2) 2007 年、第 92 回世界エスペラント大会（横浜）開催に向けて世界エスペラント大会地元準備委員会 (LKK) に協力する。

3. 普及活動（広報部、組織部と連動）

- (1) 広報部と連動して、百周年記念事業を最高の広報機会として最大限に活用する。
- (2) 会員増強キャンペーンを組織部と連動して実施する。
- (3) 支部設置キャンペーンを組織部と連動して実施する。
- (4) 入門講座開催キャンペーンを組織部と連動して実施する。
- (5) 「エスペラントの日」開催キャンペーンを広報部、組織部と連動して実施する。

第 92 回世界エスペラント大会（横浜）

■基本方針

2007 年に横浜で開催される世界エスペラント協会（UEA）主催第 92 回世界エスペラント大会に向けて、国内準備委員会（LKK）を中心に以下の重点事業を進める。

■今年度の重点事業

1. 国内準備委員会を 7 月、10 月、3 月に開催し、準備作業にあたる。
2. 大会第 1 報（Unua Bulteno）を発行し、第 91 回フィレンツェ世界大会で配布を開始する。
3. 大会シンボルマークを選定し、広報に役立てる。
4. 大会ホームページを充実させ、世界大会に関連する情報を提供する。
5. 大会ポスターを制作し、国内外の広報に活用する。
6. 格安宿舎について調査し、宿泊計画をたてる。
7. 日本の夕べ（Nacia Vespero）の内容を検討し、出演交渉を行う。
8. こども大会開催の可能性を探る。
9. 青年プログラムの内容をつめ、準備を進める。
10. 引き続きボランティアの募集を行い、世界大会に向けて組織する。
11. 第 91 回フィレンツェ世界大会で横浜世界大会参加受付に協力し、広報活動を行う。
12. 第 91 回フィレンツェ世界大会中に UEA 役員と会合を持ち、大会テーマ、大会大学、一般プログラムなどについて協議する。
13. 国内における参加受付を開始する。
14. 大会第 2 報（Dua Bulteno）の編集、出版に協力する。
15. 1 日・半日観光、大会前後観光について UEA へ提案し、企画に協力する。
16. 大会広報（Gazetara Servo）を計画する。
17. 大会速報（Kongresa Kuriero）について企画する。
18. 日本紹介プログラムについて検討し、UEA へ提案する。
19. その他、関連部と協働して、国内外への広報、助成金申請、後援依頼などに努める。

（上記項目は Kongresa Operaciaro 大会準備作業集の順序に基づく）